

連合救援ボランティアレポート

第3号
2011年4月5日

| 1

◆◇◆ご準備をお願いします 必須の装備品◆◇◆

救援ボランティアの第1陣が現地にて様々な活動を経験しており、日々現地の情報が入ってきております。実際の活動状況の報告を踏まえ、新たに必要となっている装備品として下記のものをご紹介します。以下の4点は、サイズ合わせが必要で共同購入には適さない一方、購入後も日常生活や防災用品として活用できるという利点があります。必ずしも安価なものばかりではありませんが、事前に準備をお願いします。

1. 安全靴（ブーツタイプ／ゴム連合推奨、安全品質保証「JF」マークの国産品）

※併せてロングタイプの厚手のソックスもそろえると良い。

購入できる店：全国のホームセンター、作業用品専門店等。代表的な店舗は、島忠ホームズ、ケーヨー、ホームック、コメリ、ダイキ など

2. 作業手袋（産廃作業用ゴム手袋、突き刺しにも対応）

参考メーカー：エステートレーディング製 ニトリル耐油中厚手（起毛なし）

購入できる店：上記「1」の店舗を参考

3. ヘッドランプ（LED球使用／登山用、ヘルメット装着タイプ）

※被災家屋の清掃作業で必須。

参考メーカー：パナソニック、ペツル、ブラックダイヤモンド等

購入できる店：全国の登山、アウトドア用品点、釣り具店にて入手可能。

4. 雨具上下（発汗、透湿機能素材製品）

参考素材：ゴアテックス、東レエントラント 等

購入できる店：上記「2」の店舗を参考

予防しよう 感染症

◆ツツガムシ病

すでに報道にもあるように、被災地で「ツツガムシ病」が多発するおそれについて、国立感染症研究所が注意を呼び掛けています。

ツツガムシ病は、ダニの一種である「ツツガムシ」の幼虫に刺されることで、ツツガムシが保有する病原体に感染し、発症するものです。東北地方では、他の地域と違って春から初夏にかけてふ化することが多く、この時期に感染者も多いとされています。

感染すると、5～14日の潜伏期間を経て、高熱、発疹、リンパ節の腫れなどの症状のほか、頭痛、全身倦怠感、肝機能異常などの症状が出ることもあるそうです。（次ページに続く）

＝予防のため、以下に留意しましょう＝

- 湿地帯や草むらに入る際には、ゴム長靴、ゴム手袋を着用する。
- 衣服は、素肌を露出しないものを着用する。
- ダニなどの虫よけ剤を使用する。
- 入浴、着替え、作業着の天日干しを行う

対策本部では、すでに虫よけ剤を各拠点に手配しています。利用してください。

万一、活動中または帰宅後、わきの下のリンパ腺が腫れたり、高熱・発疹の症状が出たら、すぐに医師の診断を受け、湿地帯や草むらに行ったことを告げてください。抗生物質が有効とのこと。早期発見・早期診断が重要です。

◆破傷風、レジオネラ感染症

すでに「活動のてびき」にも記載していますが、被災地には津波による土砂で汚れた釘やガラスなどが散乱している場合があります。長袖長ズボン、手袋・安全靴を着用するとともに、切り傷を負った場合は直ちに消毒し、絆創膏で保護して下さい。予防接種を行う方法もあります。

また、作業中に飛散するほこりや水を吸い込むことで、レジオネラ菌に感染するおそれがあります。マスク着用で予防しましょう。

※国立感染症研究所・感染症情報センターのウェブサイトで詳しい情報が掲載されています。

<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

＝福島・いわき市周辺対応の拠点が設置されます＝

いわき市につきましては依然として水道が止まっているなど厳しい状況が続いている中、ボランティアセンターの立ち上げも遅れています。また、周辺施設で拠点到に相応しい場所が全く見つからない状況でした。一方、できるだけ早期に支援をお願いしたいという地元地域の要請も日増しに強くなる状況のなか、当面、少々距離はあるものの会津拠点を立ち上げ、ここからいわき市周辺での救援活動を展開することにしました。第1陣（4/8～）として電機連合、運輸労連が活動に参加、第2陣（4/16～）からは2産別に加え、全労金、そして全国の地方連合会からのボランティア団がここに加わるようになります。これで当面予定していた拠点の設置はすべて完了しました。

なお、会津チームの活動は、いわき市、会津若松市を中心に被災家屋の家財道具等の片付け、被災者ニーズの把握、支援物資の仕分け・運搬・配布を行う予定です。

【会津拠点】

○沼尻勤労者保養センター ぼなり

住 所：福島県耶麻郡猪苗代町中の沢温泉

T E L：0242-64-3333 F A X：0242-64-3335

○定員：50名